

JSAF 指導者に必要なコンピテンシー

1. 体系化の目的

セーリング競技者や愛好者に対し、安全に活動できる環境の選定や、セーリングスポーツそのものの楽しみ方、より速く帆走するための技能を個々のセイラーが自ら習得することを目的に、セーリング指導（支援）者に必要なコンピテンシー（知識/能力/資質）を整理し、役割や資格に合わせて段階的に修得できるように技能と技術を整理する。

2. 必要なコンピテンシー<但し、現時点では外洋系/障がい者セーリングは未設定>

安全を最優先に考え、セーリング技術のみならず、人間力やコミュニケーションスキルなど以下の9要素25項目とする。

大項目	中項目
人間力	セーリングの魅力（楽しさ）発信
	スポーツマンシップ・シーマンシップ
	選手の成長
	他フリート、第三者や外部への丁寧な対応
	コーチングコミュニティの形成
コーチング/ リーダーシップ	コーチング（コミュニケーションスキル）
	対象者及びコーチングスタッフへのマネジメント
	対象者に応じたリーダーシップ（有能なコーチング）
セーリングの 基礎	JSAF 指導者育成フレームワークと役割
	セーリング競技規則（RRS）
	セーリングに関するスポーツ医科学
	気象と海象
安全	コーチボート操船
	対象者とコーチングスタッフの救助と保護
	沈起こし
	安全備品
	練習環境のリスクと評価
	応急処置/緊急対応
セーリング スキル	艀装
	操船
	セールトリム
	『JSAF セーリングテキスト』と実施手順の理解

育成プラン	学習ニーズ把握と目標設定
	育成プランの策定
	育成諸段階に応じた達成可能な目標調整
	育成に必要なスタッフの確保
	対象者の分析
	実施したセッションやプログラムの評価
練習実施	目的に合わせた練習場所の選定
	能力/課題に応じた道具の選択
	技能の実演とニーズへの対応（学習スタイル）
	育成すべきスキルの特定と具体的方法
	観察と記録
	評価とフィードバック
	ブリーフィング
	デブリーフィング
大会出場	出場手続と準備
	遠征（出発から帰宅）への帯同
自己の学習と成長	コーチの自己成長（自己観察と反省）
	コーチング能力開発の継続（学びの継続）
	育成プログラムの革新

以上